

S.C.WORKS 今週のスタディ！

【ヘッドライン】

- 1) 「ウォルマートでインフルエンザの予防接種」
  - 2) 「南極・北極の極地保護切手」
  - 3) 「紙」でハーブ育てる
- 

1) 「ウォルマートでインフルエンザの予防接種」

ウォルマートは、新型インフルエンザの予防注射を店舗で提供するかもしれない。今週の水曜日に、CDC（疫病対策センター）の担当者が、ウォルマートのベントンビルの本社を訪れ、その会議が持たれたと発表されている。

この予防注射は、4月から流行し始めたH1N1インフルエンザに対するもので、10月半ばまでに億6000万人分用意される予定である。ウォルマートの4000カ所以上の店舗を訪れる顧客は、毎週1億4000万人と云われ、同店での予防注射は効率が高いと思われる。実際の接種は、別の会社に委託される予定である。

世代・性別問わず様々な人が訪れるスーパーマーケットでこのような試みが行われればとても効果的であると思う。日本でも大手スーパーで同じようなことが行われるようになれば、市民にとっても心強いのではないだろうか。

---

2) 「南極・北極の極地保護切手」

郵便事業株式会社は、「極地保護切手」を共同発行するプロジェクトに参加し、6月30日に特殊切手「南極・北極の極地保護」を発行した。

この共同プロジェクトは、2007年にフィンランドとチリ両国の大統領が提唱したことから始まった。

両国の郵政事業体の呼びかけに賛同した42の国と地域において、切手を通じて世界中の多くの人々に南極・北極の極地保護及び氷河の保護を訴え、地球温暖化という世界的な環境問題に関心を持ってもらうことが目的だ。

このプロジェクトの一環として、共同発行に参加した郵政事業体のうち、さらに切手帳の共同作製に賛同した25の国と地域の郵政事業体が協力し、それぞれの切手と極地の紹介ページを収めた公式切手帳「南極・北極の極地保護切手帳」を販売、日本郵便では全日本語訳の特別版をネット限定で販売している。

地球温暖化によって極地での氷の融解が問題になっているが、CO2の排出を抑制することはもちろん、起こってしまっている問題を解決するための対策にはやはりお金が欠かせないものとなってくる。このように世界が協力し、切手の売上金がそれらを食い止める対策に使われるというのは有効的であり、現実的な手段としてより多くの人々が協力できるのではないかと思う。

---

### 3) 「『紙』でハーブ育てる」

パソコンの脇やベッドサイドなど、ちょっとした空間に置くだけで心に安らぎを与えてくれる観葉植物。インテリア感覚で置く人も多く、雑貨店などでも人気を呼んでいるアイテムのひとつだが、農業のプロダクト開発などに取り組む株式会社マイファームから、プランターに古紙を使用した手のひらサイズのハーブ栽培キット「Paper Planter」が登場した。価格は1260円。

「Paper Planter」はその名の通り、“紙で栽培する”を売り文句にした栽培キット。プランターは古紙と、産業廃棄物となる梅干の種を炭化させたものを練り合わせて作られている。紙でできているため吸水性に優れ、土のニオイもせず、虫が来ることもなし。倒しても土や水がこぼれる心配もない。

栽培できるのはハーブで、小さなふた葉の状態を2ヵ月ほど維持できるという。より大きく成長させたい場合には、紙のプランターのまま庭や鉢など、土のある場所に植え替えればOK。紙のプランター部分は土に植えるとそのまま分解されるので安心だ。同社は「農業への第一歩は机の上から」と、種をまき、水を与え、自分で育てるという過程を通して、「農業の喜びを感じて欲しい」としている。

すべてが環境に優しい素材からできており、手入れも簡単ということで幅広い層に受け入れられそうだ。これが直接「農業」へ結びつくには時間がかかると思うが、日常の中で育てる喜びを感じることができるというのは魅力的だ。